

平成31年度 行政評価事業別シート

実計対象		☐	評価対象	☒	新規	☐	完了事業	☐	ゼロ予算事業	☐	担当者	手塚寿彦
全体計画						経費区分	—			内線	3781	
事務事業名		4342 消防施設管理事業										
所 属		450100 消防本部・消防本部・消防署										
施 策		03021400 消防・救急体制の充実										
予算 科目	会計	01 一般会計										
	科目	090103 消防費・消防費・消防施設費										
	事業	010000 消防施設管理事業										
事業目的						事業概要・効果						
消防施設を適正に維持管理し、災害時の対応に万全を期する						・経年老朽する施設の改修 ・既存施設の活動向上のための改修 ・地上式消火栓の設置及び維持管理						

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
・既設防火水槽の改修 ・消防団活動の安全管理の向上 ・地上式消火栓の設置及び維持管理	・消防施設修繕 ・地上式消火栓の設置25基及び維持管理19基
平成29年度 実績	平成30年度 実績
・既設防火水槽の改修 ・消防団活動の安全管理の向上 ・地上式消火栓の設置22基及び維持管理16基	・既設防火水槽の解体及び修繕 ・消防団活動の安全管理の向上 ・地上式消火栓を11基設置 ・地下式消火栓の6基設置及び20基維持管理
平成31年度 予定	令和 2年度 予定
・既設防火水槽の改修 ・消防団活動の安全管理の向上 ・地上式消火栓を2基設置（予定） ・地下式消火栓の12基設置及び17基維持管理（予定）	・既設防火水槽の改修 ・消防団活動の安全管理の向上 ・地上式消火栓の 基設置及び 基維持管理（予定） ・地下式消火栓の 基設置及び 基維持管理（予定）

指標名	なし					
算式	-					
年度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由	-					
最終年度目標の根拠	-					
指標名						
算式						
年度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指標名						
算式						
年度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						

事業費

(単位：千円)

		平成30年度 決 算	平成31年度 予 算
事業費		23,546	15,608
特 定 財 源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	0	0
一般財源		23,546	15,608
人員数 (人)	正規職員	0.6	0.6
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	0.0	0.0
人 員 コスト	正規職員	4,290.0	4,290.0
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	0.0	0.0
	計	4,290.0	4,290.0
市民一人当たりの経費		0.5	0.4
総額		27,836.0	19,898.0

(単位：千円)

平成30年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	960	修繕料（消防庁舎施設・設備630、防火水槽195、無線中継局135）
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	1,577	防火水槽解体工事（仁礼町）
19節 負担金補助及び交付金	19,730	消火栓設置14,916、維持管理費4,814
その他	1,279	借上料296、火の見半鐘打鳴装置購入983

(単位：千円)

平成31年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	900	施設修繕 防火水槽（蓋、内壁）改修
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	13,443	消火栓の設置10,678、維持管理費2,765
その他	1,265	借上料282、備品購入費（半鐘打鳴装置）983

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	・市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか ・行政内部の管理運営上必要な事業であるか ・市が主体となり実施すべき事業か ・法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか ・目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか	必要不可欠
評価コメント	消防水利の整備充実に必要 経年老朽する団詰所・機械器具置場を修繕し、また地上式半鐘打鳴装置を購入し団活動の安全と負担軽減を図る	
有効性	・事業の成果は上がっているか ・目標に対する達成度は十分か ・市民生活上の課題解決に貢献しているか ・行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか ・事業の目的が達成できるような事業内容になっているか	有効
評価コメント	地上式消火栓を設置整備することにより視認性・操作性が向上するとともに、自主防災組織での初期消火体制に有効 地上から半鐘を打鳴でき、団員の負担軽減と安全性が向上	
効率性	・成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか ・効率性向上に努めているか ・使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか	やや向上
評価コメント	水道事業者の工事に併せて消火栓を設置し、コストカットを図る 中長期的な見地から半鐘打鳴装置の継続的設置を検証していく	

振り返り（決算年度の取組み課題）

関係部局との連携維持
 既設の施設を維持管理する
 半鐘打鳴装置設置の方向性検討

ACTION**1次評価**

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント	
消火栓の設置、維持管理は必要不可欠のため、今後も恒久的に事業を進める。半鐘打鳴装置は、建設から50年以上経過している警鐘楼もあり状態を調査の上、警鐘楼の撤去も含め事業縮小の検討を要する。	

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
2次評価コメント	
・警鐘楼（火の見櫓）の維持管理について平成30年度から検討を始めた。他市町村の動向なども注視し検討を続ける	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	